

Information

SIH 道場で使用可能な教材

SIH 道場のテキスト、反転授業のビデオ教材（「SIH 道場」「ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）」）、ルーブリック（ラーニングスキル）のサンプルを提供しています。内容を変更して使用することもできます（ルーブリック等）。



【SIH 道場テキスト】

SIH道場 ラーニングスキル<プレゼンテーション力>ルーブリック評価表				
		尺度		
		(A) 期待通りです	(B) ますますです	(C) 努力しましょう
①内容の構成	理由（理由と論拠）と結論（主張）のつながりがわかりやすい順番で構成されている。	理由と結論の順序については、意図が読み取れるが、改善の余地がある。	理由と結論のつながりがわかりやすい順番で構成されていない。	
②姿勢	説明する内容を聞き手に理解してもらうための工夫（発声、発語、身振りの活用）がある。	説明する内容を聞き手に理解してもらうための工夫がほとんど見られない。	説明する内容を聞き手に理解してもらうための工夫がほとんど見られない。	
③視覚資料	必要な情報がすべて盛り込まれており、視覚資料になっている。	必要な情報の一部が不足している。視覚資料になっているところがある。	必要な情報が不足している。あるいは視覚資料になっていないところがある。	

【SIH 道場 <プレゼンテーション力>ルーブリック】

◆反転授業ビデオ教材は、徳島大学 LMS (Moodle) から視聴することができます。

URL : <https://moo.chi.tokushima-u.ac.jp/>

共通教育科目・専門科目での取組事例

徳島大学で行われているアクティブ・ラーニングの手法、反転授業などの実践を共有するために、事例カードを作成しています。授業方法の要点をまとめた内容となっていますので、導入の際のヒントになります。

◆反転授業（知識定着のための課題演習）	
目的教育的意図	◆Key Words<理解促進> 基礎知識を確実に定着させるために、講義はいつでも視聴できるように録音化してあり、授業時間内では演習問題や発展的な内容を扱い、定着の促進を図る。
概要	講義内容をビデオに録音（20分～25分）し、Moodleを用いて履修学生に提供する。学生は、事前にビデオ教材で演習問題を学習し、演習問題の解説動画を視聴し、それらから対面授業に臨む。対面授業では、演習問題と同じ内容の小テストを実施し、さらに発展的な内容を扱った小テストを実施し、さらに発展的な内容を扱った小テストを実施する。対面授業では、演習問題と同じ内容の小テストを実施し、さらに発展的な内容を扱った小テストを実施する。対面授業では、演習問題と同じ内容の小テストを実施し、さらに発展的な内容を扱った小テストを実施する。
分野	工学系（他分野でも応用可能）
クラスサイズ	大(70名以上)
所要時間	学生が事前にビデオ教材で演習を習得しているという前提で、90分授業をデザインする。
学生の事前学習	講義ビデオの視聴：約20～25分、演習課題の解説：約10分
評価方法	なし
準備物	講義ビデオ、小テスト ※講義ビデオは、前年度の授業を録音した映像を使用しており、録音やMoodleへの録音はラーニングサポート課の協力を得ているため、実務的な負担はない。
実施のポイント	◆学生がビデオ教材で演習問題を習得してから授業に臨むため、授業内では知識を定着させるための演習問題を準備することができる。そのため、演習問題を多くし、丁寧に解説し、丁寧に解説することができる。 ◆学生は、演習問題を習得して、授業でも自分のペースに合わせて習得することができる。
学生の反応	高学年から、次のような意見が寄せられた。 ○ビデオ教材は、いつでも見返ることができるため、試験前などにも役に立つ。 ○授業の冒頭で、課題演習（ワーク）を行うため、授業に参加する意義が実感できる。

◆反転授業（知識定着のための課題演習）

講義内容を20～25分程度のビデオに録音し、moodleを用いて履修学生に提供する。学生は、事前に講義ビデオを視聴し、演習課題を解いておく。ここまでの授業外学習を行ってから対面授業に臨む。対面授業では、演習課題と同じ内容の小テストを実施したり、関連する発展的な内容を取り扱った小テストができる。学生は、重要な部分を繰り返し学習することで内容をより理解し、知識の定着に繋がる。今回の事例では、授業の冒頭で小テスト（課題演習）を8分、その解説を30分実施した。

【学生の学習を促進する授業事例カード】

◆平成28年度に LMS で公開を予定しています。

発行

徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

平成 28 年 1 月

URL : <http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/>

問合せ先

徳島大学 学務部教育支援課 教育企画室

Tel : 088-656-7679

Mail : kykikakuk@tokushima-u.ac.jp



STRIKE
WHILE THE
IRON IS
HOT.

鉄は熱いうちに打て

「鉄は熱いうちに打て」
(SIH : Strike while the Iron is Hot)

SIH 道場は、徳島大学の学部 1 年生
全員が受講する初年次教育プログラムです
開始初年度の平成 27 年度は、
15 プログラムが展開されています
(担当教員数 : 188 名、受講学生数 : 1324 名)



徳島大学 大学教育再生加速プログラム テーマI アクティブ・ラーニング

学生と教員が共に成長する SIH 道場 ～アクティブ・ラーニング入門～

SIH 道場の目標

学生：ラーニングスキルの向上

- ① 専門領域早期体験による学習の動機づけ
- ② ラーニングスキル（文章力・プレゼンテーション力・協働力）の修得
- ③ 振り返りをとおした能動的学習力の基礎固め

期待される効果
高度専門職業人の基礎的能力を備えて卒業

教員：ティーチングスキルの向上

- ① 実践を通じたアクティブ・ラーニングの実質化
- ② ルーブリックによる評価、反転授業等の手法の修得
- ③ 教育経験を振り返る機会をもつ

期待される効果
大学全体にアクティブ・ラーニングが拡大

平成27年度 SIH 道場学生アンケート結果からみた効果

- ◆学生の SIH 道場プログラムの満足度は、全体で見ると 83%という結果でした（回答率 87.5%）
※他方、教員の SIH 道場プログラムの満足度は、49%という結果でした（回答率 33.9%）
- ◆SIH 道場プログラムについての全ての項目において、肯定的回答が 7 割を上回るという結果でした
▶平成 27 年度 SIH 道場の取組は総じて一定の成果をあげていると言えます

アクティブ・ラーニング推進の背景

- 中央教育審議会答申（平成 24 年）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」
「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。…学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」
- 文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）」（平成 26 年度より公募）
「アクティブ・ラーニング（テーマI）」等を行う取組を重点的に支援する
※徳島大学は、平成 26 年度にテーマIに採択されました（テーマI採択校は、94 件申請中 9 件）

大学教育再生加速プログラムの数値目標

	指 標	H25年度	H26年度	H28年度	H29年度	H30年度
必 須	AL（アクティブ・ラーニング※）を導入した授業科目数の割合	47.1%	50.4%	60%	70%	80%
	AL 科目のうち、必修科目数の割合	41.3%	42.7%	50%	55%	60%
	AL を受講する学生の割合	100%	100%	100%	100%	100%
	学生1人当たり AL 科目受講数	11 科目	12 科目	13 科目	15 科目	18 科目
	AL を行う専任教員数	371 人	446 人	450 人	500 人	550 人
	学生1人当たりの AL 科目に関する授業外学修時間（1週間当たり）	4 時間	5 時間	8 時間	9 時間	10 時間
設 定	AL をテーマとした FD に参加した教員の割合	—	—	100%	100%	100%
	LP（ラーニング・ポートフォリオ※）を導入した授業科目数の割合	—	—	5%	—	10%
	反転授業※を導入した授業科目数の割合	—	—	4%	—	8%

◆「[必須指標]」は採択大学に共通、「[設定指標]」は徳島大学独自で設定

徳島大学では、赤字のキーワードを次のように定義しています

アクティブ・ラーニング

教員による一方的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学習を促進させる双方向の教授・学修のこと。
(平成 26 年 5 月 21 日 大学教育委員会承認)

ラーニング・ポートフォリオ

授業のある単元が終了した後で、学生が学習（実験、実習、演習等）に関する省察を行い、その内容を記述し、他者と共有を行い、他者からのフィードバックを受けるシステムまたは教材等を使用している授業。

反転授業

学生が授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に学習し、その内容に関する確認を行うための課題（簡単な復習テスト等）を設定し、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学習を促進する授業。

学生の能動的学習を促すために

- ◆SIH 道場で実践した「アクティブ・ラーニング」「ラーニング・ポートフォリオ」「反転授業」等の教育手法を、担当する他の科目へ導入する際には、以下の要点を再確認するとよいでしょう。

アクティブ・ラーニングの手法で能動的学習を促す

利点 学生の思考が活発化され、能動的な学習を促すことができる。

方法

- 課題演習** 学生と教員、学生同士の双方向で、課題や演習の解説・確認を行う
- 質疑応答** 学生が教員や他の学生に質問しフィードバックを得る双方向の仕組みを設定する
- 振り返り** 学生が学んだことについてまとめることで省察を行い、それを学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う時間を設ける
- グループワーク** グループで、1つの課題を解決するための学習、調査、考察等を行い、その成果物を作成させる
- ディスカッション** 1つのグループを形成し、1つのテーマについて議論を行い、その成果物を作成させる
- プレゼンテーション** 1つ以上の課題またはテーマについて、学生に他の受講者に対してプレゼンテーションをさせる

ラーニング・ポートフォリオで自律的学習を促す

利点 学生は自身の学習について振り返り、フィードバックを受けることで、学習の進捗を踏まえた今後の学習計画を考えることができ、学習意欲の向上にも繋がる。

方法

- ①省察（振り返り）⇒ ②記述 ⇒ ③記述内容の共有 ⇒ ④他者からのフィードバック
- あらかじめ指定したフォーマット（「学習した内容」「成果と課題」「今後の自身の目標」）または自由記述形式で、省察の内容を記述させ、教員あるいは学生同士等で共有し、フィードバックを行う
- 紙媒体だけでなく web ベース (Mahara) でも振り返りの共有を行う

反転授業で授業時間を有効に活用する

利点 学生が事前学習をいつでも何度でも個人のペースに合わせて行うことができる。授業において、教員と学生が同一の場所にいることを活かしたアクティブ・ラーニング型の授業運営が可能になる。

方法

- 事前学習（教科書の解説等）× 対面授業（演習問題を解く、答え合わせ、発表等）
- 事前学習（知識の説明）× 対面授業（テーマに対するディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク）
- 事前学習（実験、実習・ワークの手順説明、知識の説明）× 対面授業（実験、実習、フィールドワーク）

- ◆徳島大学では、学生の能動的学習を促すために、「アクティブ・ラーニング」「ラーニング・ポートフォリオ」「反転授業」を、コースの中で1回でも実施することを推奨しています。